

歩く

知る

つくる

# 村のみちしるべ



竜丘ふるさと教材

## 発刊にあたって

本書では、竜丘全域を学習エリアとしてとらえ、その中にある歴史、文化、自然などの様々な素材(教材)を、6つの目的別コースに分けて紹介してあります。また、ふるさとめぐりアラカルトの項に、地区別コースや旧道を歩くコース等も簡単に紹介しましたが、この他にも思い思いに素材を結んで自分なりのコースを考え、地域めぐりを行ってみてください。

本書のタイトル「村のみちしるべ」は、竜丘の「道を知り」歩きまわり、その中で新たな発見をして「未知を知り」地域への理解を深める。そして、このような地域学習活動の積み重ねが、魅力あるふるさとづくりの「道標」になってほしい。そんな思いをこめてつけました。

ご家庭、各種団体、学校等において、地域学習の手引き書としてご活用いただければ幸いです。

本書を片手に歩いてみると、きっと、今までとは違った「竜丘」がみえてくると思います。

### 目次

#### 目的別コース

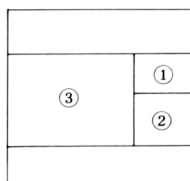
<b>古墳</b>	古代ロマンの散歩みち ～古墳めぐりコース～	2
<b>自然</b>	いきいき自然散歩みち ～自然散策コース～	6
<b>名所</b>	歴史がみえる散歩みち ～名所・旧跡コース～	9
<b>メルヘン</b>	ふるさとメルヘン散歩みち ～みちくさコース～	12
<b>施設</b>	施設をめぐる散歩みち ～施設めぐりコース～	14
<b>水</b>	水とくらしを探る散歩みち ～水をめぐるコース～	16

<b>ふるさとめぐりアラカルト</b>	.....	19
---------------------	-------	----

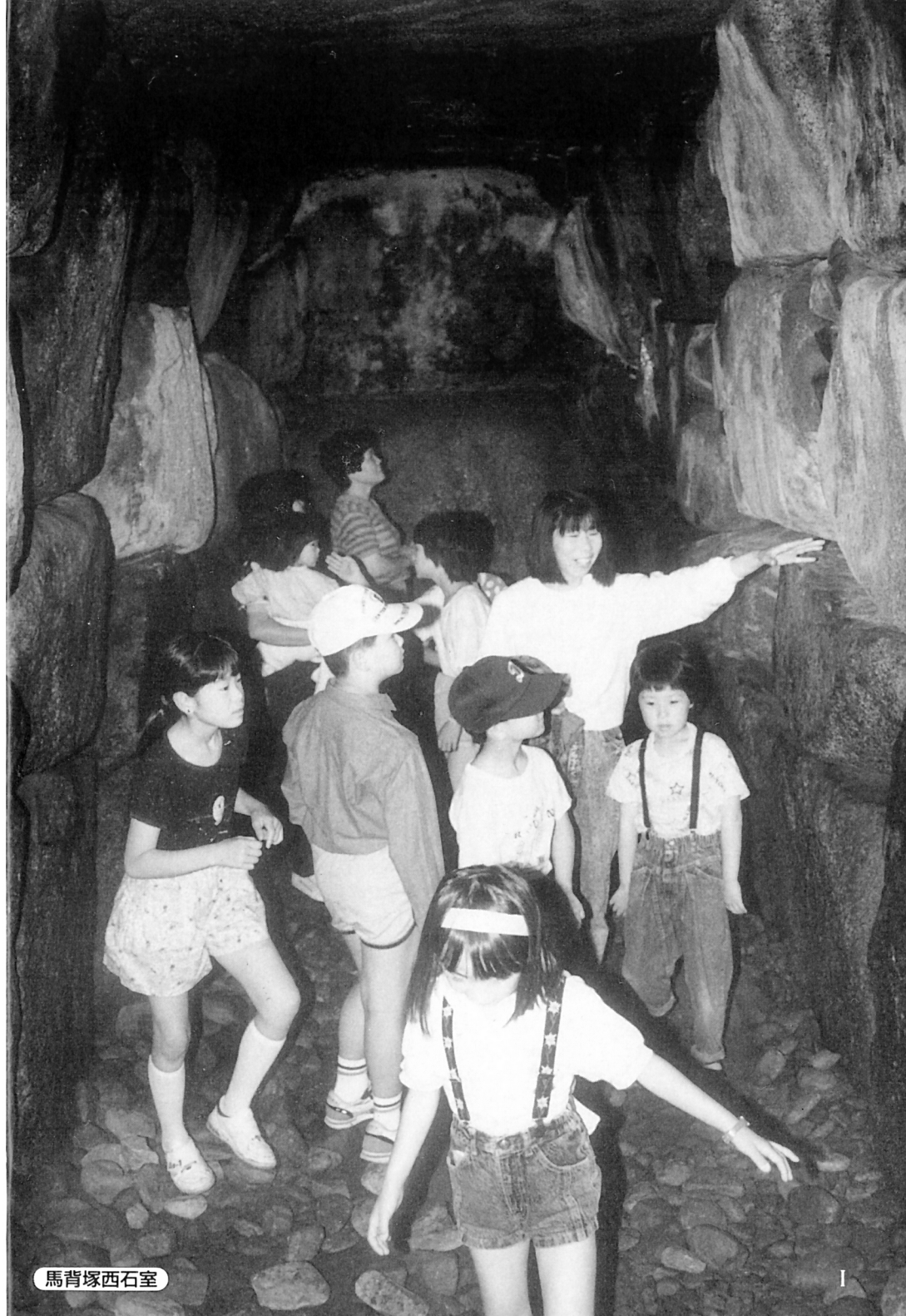
<b>わたしがつくる散歩みち</b>	.....	20
--------------------	-------	----

<b>竜丘の年中行事</b>	.....	裏表紙裏
----------------	-------	------

#### 表紙



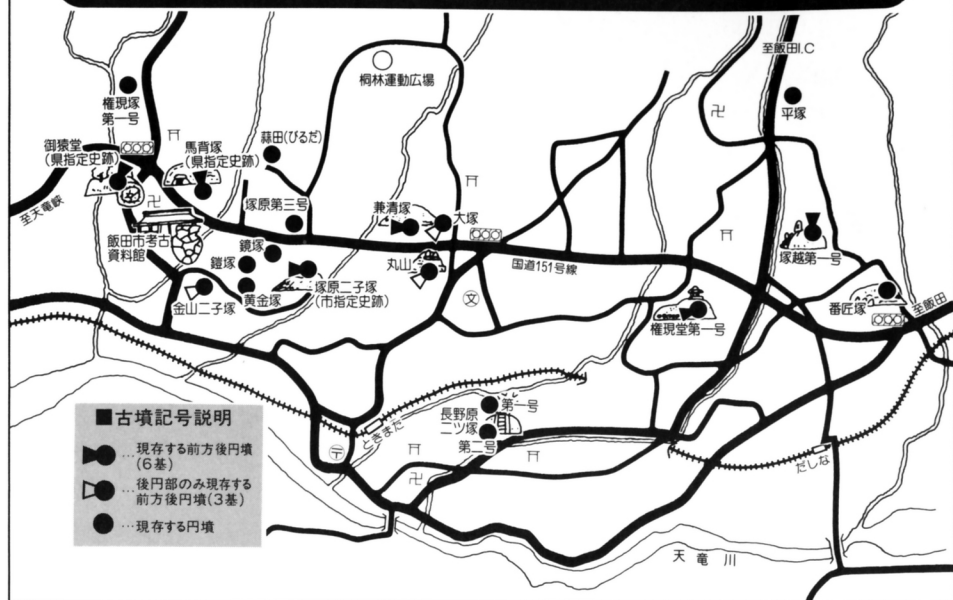
- ① ギフチョウ
- ② 兼清塚古墳
- ③ 竜東から望む竜丘



馬背塚西石室



古代ロマンの散歩みち — 古墳めぐりコース —



竜丘の古墳

古墳の前に立ってみると、いろいろな疑問がわいてきます。いつ頃造られたのか。誰がまつられているのか。誰がどんな方法で、どのくらいの時間をついやして造ったのか。どんな出土品があるだろうか等等。明快な解答はあまり期待できません。考古学が進んできているといっても、1,300年以上昔のことですから、あくまで推測でしか答えられません。だからこそ、一層古代へのロマンがかきたてられるのではないのでしょうか。

竜丘の古墳は、138基を数え、質量ともに飯伊地方随一と言えます。中でも兼清塚は、飯伊地方最古の前方後円墳と言われているし、鎧塚は最大の円墳と言われています。さらに馬背塚の石室規模は最大であり、御猿堂出土の四仏四獣鏡は、国の重文に指定されています。では、何故これほどの大古墳群が竜丘地区に形成されたのでしょうか。何人かの学者は、窯業と馬匹産業が当時の経済を支えていたのではないかと指摘しています。

しかし残念なことに、近代化の波は、かけがえのない古墳を次々と破壊してきています。今私達のなすべきことは、数少ない現存古墳をこれ以上破壊させないよう保護し、次世代に引継いでいくことだと思います。

本書では、古墳めぐりコースを2コース紹介します。いずれのコースも徒歩で3時間以内で回れ、比較的保存状態のよい古墳を選定しました。ぜひ自分の足と目で確認して、古代ロマンを感じとっていただきたいです。尚詳細については別発行の「ふるさと歴史散歩みち」を参照ください。また見学に際してはマナーを守ってください。

- コースⅠ 平塚—塚越第1号—番匠塚—権現堂第1号—長野原ニツ塚第1号、第2号—丸山—大塚—兼清塚
- コースⅡ 藤田(ビルダ)—塚原第3号—鏡塚—鎧塚—黄金塚—塚原二子塚—金山二子塚—馬背塚—権現塚第1号—御猿堂



古墳見学会 '89年4月馬背塚東石室入口

モデルコースⅠ

ひら 塚  
平 塚

鈴岡城址の南側傾斜地にある小規模な円墳。丘上の小祠(ほこら)と桜の木が目印。昔この塚から直刀が発見されたが、地主が火ばしに加工してしまったという。

つか こし  
塚 越 第1号

駄科北平地籍にある長軸60mの前方後円墳。四囲の裾、特に前方部はかなり削り取られている。6世紀後期の築造と推定されている。横穴式石室が後円部の中央、南西に向けて開口している。石室入口は土砂の堆積により狭くなっているが、中に入ることはできる。内部の規模は、馬背塚東石室に次いで荘大。出土品は丸玉が確認されている。



全 景

ばん しょう づか  
番 匠 塚



全 景

塚越第1号古墳の東方500mの位置にある、直径38m、高さ4mの円墳。比較的原型が保たれているが、

封土は大部分拓かれて畑となり、南方の一部、東方の裾も、削り取られている。宅地地ならしの際、直刀、古銭が発見されたと伝えられているが、未発掘とも言われている。

ごんげんどう  
権現堂 第1号

駄科南平地籍にある、塚越第1号と同規模の前方後円墳。6世紀中期の築造と推定され、比較的原型が保たれている。石室の有無は不明であるが、出土品は多数確認されている。大正11年、竜丘青年会が後円部を発掘し、多数の出土品を発見した。



全 景

ながの はらふたつづか  
長野原ニツ塚第1号・第2号

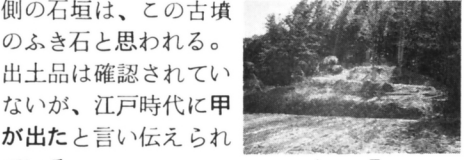
長野原地区南西部の新川を臨む台地端に、18mを隔てて小円墳が二つ並んでいる。竹やぶを背にした低い方が1号墳。家を背にした高い方が2号墳。石室、出土品とも不明。



左が2号、右が1号

まる やま  
丸 山

桐林久保田地籍にある長軸60mの前方後円墳。一見円墳のように見えるが、前方部はすっかり削り取られ、宅地になっている。竪穴式の石室があったと推定され、5世紀末の築造と思われる。丘の西、北、東をとりまく用水路は、溝の名残りともみられ、牧内氏宅地北側の石垣は、この古墳のふき石と思われる。



全 景

出土品は確認されていないが、江戸時代に甲が出たと言われている。

おお つか  
**大 塚**

国道151号を隔て、丸山古墳の西方130mの位置にある長軸73mの**大型前方後円墳**。前方部は崩され、後円部のみが残っているが、高さは9mもある。丘頂に3箇の大石が露出しており、この石は**竪穴式石室**の側面ではないかと見られている。築造は丸山と同時代と思われる。埴輪、水鳥の頭等の出土品が確認されている。



後円部全景

けん せい つか  
**兼 清 塚**



大塚古墳の東南に並んでいる長軸63mの**前方後円墳**。飯伊地方**最古の古墳**（5世紀末築造）と言われている。封土は削られ畑となっているが、石室は**竪穴式**と推定されている。出土品は豊富で、中でも**二神二獣鏡**（竜丘小学校蔵）は、貴重である。

全 景

**モデルコースII**

びる だ  
**蒜 田**

桐林地区塚原古墳群が一望できる高台にある円墳。最近の調査で、方墳の可能性が指摘されている。石室、出土品は不明。

つか ばら  
**塚 原 第3号**

塚原古墳群、国道151号北方に隣接した中規模な円墳。南側は崩され、石室の石とみられる石垣が積まれている。最近の調査では**帆立貝型前方後円墳の可能性**が指摘されている興味深い。



全 景

かがみ つか  
**鏡 塚**

国道151号を隔てて、塚原第3号の東南方40mの所にある中規模な円墳。封土の中段に石垣があり、段塚のように見えるが、石室の石ではないかと言われている。石室は横穴式と推定され、鏡が出土している。

よろい つか  
**鎧 塚**

鏡塚の南方42mを隔てた所にある長径58mと、飯伊地方**最大の円墳**。出土品の短甲（開善寺蔵）は全型よく保存されている。この短甲の出土により鎧塚と呼ばれている。



短 甲

こ がね つか  
**黄 金 塚**

鎧塚の南100mを隔てた所にある大規模な円墳。形は崩れ、雑木におおわれている。出土品は青銅の鏡が確認されている。

つか ばら ふた こ つか  
**塚 原 二 子 塚**

塚原古墳の中心にある、長軸72mの**大型前方後円墳**で、市の**史跡指定**を受けている。前方後円墳の美しい形を残しており、築造は5世紀末と推定されている。竪穴式石室と思われるが出土品は不明。埴輪小片を拾うことができる。



全 景

かな やま ふた こ つか  
**金 山 二 子 塚**

塚原古墳より一段低い金山台地の東南端に立地し、塚原二子塚に劣らぬ規模をもつ**大型前方後円墳**。



石室入口

前方部は平らげて畑となり、全体的な形は崩れている。6世紀前期の築造と推定され、**横穴式の石室**が二つあったが、現在は後円部の石室のみが残っている。規模は小さく中には入れない。出土品は豊富である。

ま せ つか  
**馬 背 塚**



西石室内部

国道151号を隔てて、開善寺の北方高台にある長軸46mの**前方後円墳**で、県の**史跡指定**を受けている。

この古墳は1基に**横穴式2石室**をもつ特殊な構造で、特に東石室の規模は飯伊地方最大である。両石室とも中に入ることができるが、懐中電灯が必要である。どんな方法で築いたのか考えてみるのも楽しい。6世紀後期の築造と推定されているが、出土品は不明である。

**古墳豆知識**

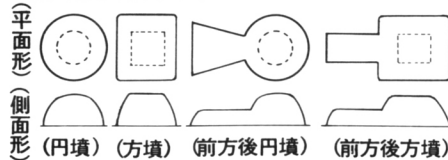
**古墳の歴史**

日本の古墳時代は、弥生時代と奈良時代の間、今から1,700~1,300年前の約400年間のことで、その時代各地に大小様々な豪族が居住していました。

その豪族のお墓が古墳です。それぞれの勢力の差や時代の前後により規模などは変化していますが、いずれもがその土地にあっては特別な意味を持っているといえます。

**古墳の形態**

古墳の形は、真上から見た平面形により呼び方を変えています。円形のは**円墳**、方形のは**方墳**、方形と円形を合わせたものが**前方後円墳**、方形を2つつないだものを**前方後方墳**と呼びます。前方後円墳の中に前方部分が小さく帆立貝をふせたような帆立貝型の**前方後円墳**もあります。



こんげん つか  
**権現塚 第1号**

上川路西部にある小規模な円墳。昭和24年に封土を掘り取っていたところ、石室が現われ遺物が多数出土したが、石室に戻して密封しておいたと言う。他に出土品がある。

お さる どう  
**御 猿 堂**

開善寺の南方100mにある長軸66mの**前方後円墳**で、県の**史跡指定**を受けている。**横穴式石室**で中に入ることができる。出土品は豊富で、中でも**四仏四獣鏡**（開善寺蔵）は一級品で、国の**重文に指定**されている。築造は6世紀前期と推定されている。



四仏四獣鏡

コースを回る前にぜひ一度お読み下さい。

**古い古墳と新しい古墳**

4つの基本的な形は、古墳時代全体を通して造られているので、外形だけで造られた時代を判断するのは難しいことです。ただ、前方後円墳はその外形である程度推測できます。

それは、前方部の幅が狭く、その高さも後円部に比べ低いものが、古い段階に多く、竜丘では**権現堂1号・兼清塚**がこの仲間です。逆に新しいものとしては、前方部の幅が広くその高さも後円部と同じかそれ以上のもので竜丘では**馬背塚や塚越1号古墳**があります。この中間的な形として、**塚原二子塚・御猿堂古墳**があります。

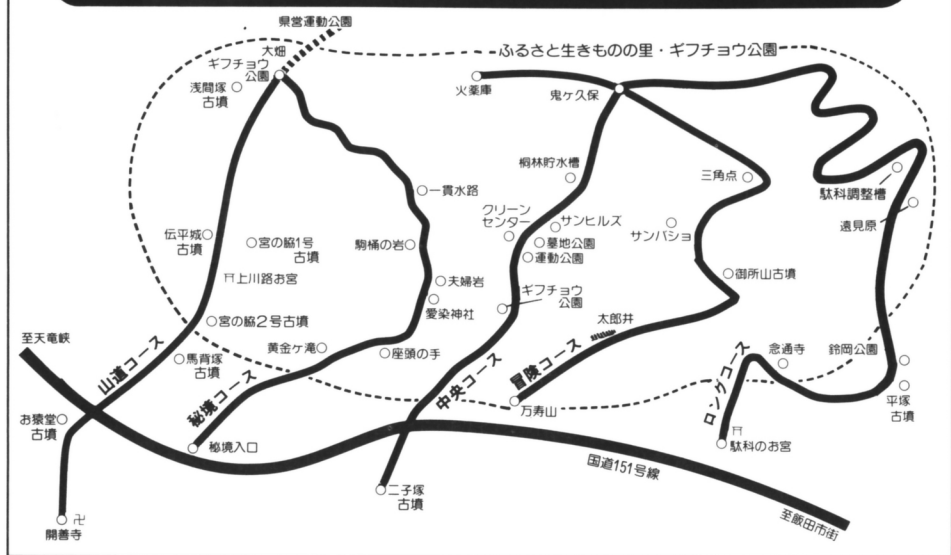
古墳の造られた時期を外形だけで判断するのは非常に難しく、内部主体と呼ばれる死者を葬った形の差や、出土品などを総合的に判断する必要があります。

石室で分類すると、墳丘の頂上部分に穴を掘って造った**竪穴式石室**が古く、墳丘の横に入口のある**横穴式石室**が新しいものです。

御猿堂古墳のように中腹にある**横穴式石室**は、中間ということになります。



いきいき自然散歩みち — 自然散策コース —

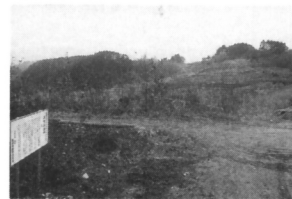


コースの概要

鈴岡公園から上川路の大畑まで続く「緑の丘陵地帯」。里山の緑が、人々と共に生活してきた。平成の今、里山は荒れている。子供たちを育ててきた里山はどこへ行ってしまうのか。いきいきとした自然に親しめる散策コース5つを紹介してみたい。竜丘の地形は呼名の如く丘から出来上っているので、どのコースを見ても必ず坂道があり険しい所もあるが、所要時間は1時間位で組んである。冒険コースについては整備が必要であるので、小学生は単独では入山しないように注意されたい。

山道コース

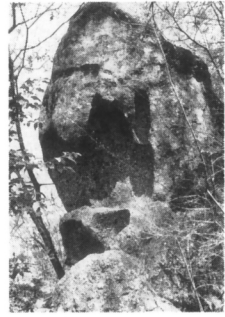
開善寺よりお猿堂古墳へ向う。お猿堂の石室を出たら、馬背塚古墳を経て宮の脇2号古墳を右手に見て上川路の八幡様へ着く。急な登り坂で山道にかかる。宮の脇1号、伝平城古墳が近くにあるので、見落さないように舗装でない山道を登る。大畑という耕地へ出るとそこがギフチョウ公園で、大きな看板がある。4月から5月にかけてギフチョウが乱舞する楽園である。近くに見落さないように。そのまま歩を進めば中村、三日市場を経て運動公園に通じる。春夏秋ともに自然を満喫できる。



大畑のギフチョウ公園

秘境コース

国道151号線の開善寺うらに臼井川秘境入口の看板があり、少し広い場所がある。急な坂道を下るとギフチョウの看板があるので、そこを左へ曲って臼井川の上流を目ざす。人家がなくなってはじめて「黄金の滝」が対岸に美しいしぶきを上げている。「座頭の手」「愛染神社」は道路より少しはずれるが見落してはいけない。「駒桶の岩」は深い溪谷にあり足もとに気をつける。小道はやがて竜西一貫水路



臼井秘境座頭の手

の鉄管に行き当たるが、横の橋を渡ると臼井川の対岸上川路側となる。急な山道を登る両岸にカンアオイの群生地があり、ギフチョウ公園へ道はつながっている。春と秋がおすすり出来る秘境である。近くにクワガタ虫のとれる木がある。



臼井秘境黄金の滝

中央コース

塚原二子塚を出発して、国道を横切ってクリーンセンターをめざす。左手正面土手に「88 桐林」の植込みが見えたら、左折して、100m進むと、ギフチョウ公園の本拠地へ出る。小学生、老人学園の移植した食草のカンアオイの密生地が見られる。クリーンセンター、墓地公園、運動広場、サンヒルズを見て臼井原へ向う。新しく開発された舗装道路だが、十分に自然は残っており、桐林貯水槽も寄って見るとおもしろい。坂を登り切ったところが「鬼ヶ久保」で、中央コースの終点。養豚団地の道を廻ると旧道で最高の自然にふれられる。注意することは、まむしの棲息地があるので夏は山林への立入りは充分気をつけること。古窯跡もこのコースに近い。メダカ、タニシの保護池もこのコースの近くにある。



日照り続きでも水の枯れない鬼ヶ久保

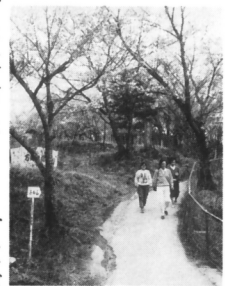
冒険コース

万寿山から太郎井にそって通学路を新井原方面へ向う。新川を右手に見て駄科の対岸が近づくと急に鋭角に太郎井を渡り山道へ入る。急な山道を100m位登ると右側に御所山古墳がある。立派な現存古墳だが道が悪



駄科三等三角点

いのであまり知られていない。この辺は御所山という地名であり、近くに「念地山1号、2号」古墳もある。昔の山道をたどってゆくと「三角点」に出る。全国に32,662ヶ所ある三等三角点の一つで、標高558mの重要地点である。近くにギフチョウの看板が立っているのを探しやすい。鬼ヶ久保まで行って冒険コースは終点とするが、竜丘でヒバリの鳴く三ヶ所のうちの二ヶ所がこのコースである。三角点より南に向えば万寿山のうしろへ出られる山道があるが、古道で険しい。射撃場跡や弊獣を埋めた「サンバシヨ」もこのコース添いにある。「サンバシヨ」は「三味場」→サンマイバ→お墓の意味から呼ばれて来たのだと思われる。



桜の名所万寿山公園

ロングコース

駄科のお宮から念通寺へ向う途中に条理制の跡と思われる昔のままの配列の田があるので、注意してみると良い。鈴岡公園へ登る旧道添いに平塚古墳がある。公園の外堀を右手に見て山道を登ると遠見原に出る。大井川を渡り市営水道の貯水槽を左手に見て山を下る。新川を渡り鎌取平をめざして山道を登る。途中冒険コースと合流し、鬼ヶ久保で中央コースと合流する。この地帯は「大平」と呼ばれ、竜丘で電柱のない代表的なところであり、学校林を右手に見て南に向うと火薬庫まで道は続いている。この先はクリーンセンターまで距離は少しだが道はない。春秋ともに山の幸にもお目にかかる。



鈴岡公園石碑

## ギフチョウ

### 生態

鮮明な黄と黒の前翅のだんだら模様、青とだいだいの後翅紅角紋を持つギフチョウは氷河期の残した妖精、春の女神と呼ばれ親しまれている。幼虫はカンアオイとウスバサイシンのみ食し、年一化蛹で越冬、零下20℃にも耐える。成虫はサクラ、カタクリ、ツツジ、スマレ等吸蜜し、美しく可憐な蝶である。



桐林ギフチョウ公園

### 保護活動

ギフチョウはマニアの乱獲と開発により絶滅の危機にひんしているが、飯田昆虫友の会、竜丘小学校、老人学園、実年会、婦人会、飯田ロータリークラブの皆さん等による食草移植やパトロール作戦で成果があがる。

### 天然記念物

平成元年1月31日、飯田市の天然記念物に指定される。

### ふるさと生きものの里 飯田市ギフチョウ公園

平成元年4月27日、全国119ヶ所の内の1ヶ所として環境庁よりふるさと生きものの里の指定を受ける。

上川路から桐林、駄科の鈴岡公園におよぶ広い範囲にギフチョウは生息している。ギフチョウの生息出来る自然環境は人間の生活にも適した環境であり、ギフチョウの住める環境を守ることが、我々人間の生活も豊かになることである。ギフチョウ公園が人々の善意に支えられてい



食草ヒメカンアオイのお引越し

までも共存出来ることが望まれる。

### ムトス飯田賞

平成2年3月22日、地域ぐるみの保護活動が認められ「第5回ムトス飯田賞」を受賞する。



カタクリの蜜を吸うギフチョウ

### つれづれ散歩道

竜丘には自然が残っている。緑もまだ残っている。自然の緑を大切に守ろう。山にいて、山を忘れかけている大人。その大人に育てられた山を知らない子供。その子供が大きくなって子供に山のことを何と言って教えるのだろうか。竜丘の緑はみんなの緑だ。自然の緑はその場所にあることに価値があり、壊しても移動してもいけない。人がそこへ逢いに行くこと。緑をそこに訪ねて緑にふれることが、人との共存なのだ。

又、川には魚がいて、水辺の昆虫が顔をのぞかせる、溪流に鳥が飛び、空はぬけるように青い。

私達の先祖は大切に自然を守って来た。私達も自然に学び、自然と共に生きて、後世に自然を伝えていくことが大切な役目である。

いつまでもいきいきと自然散策が出来る竜丘の自然を残していこう。

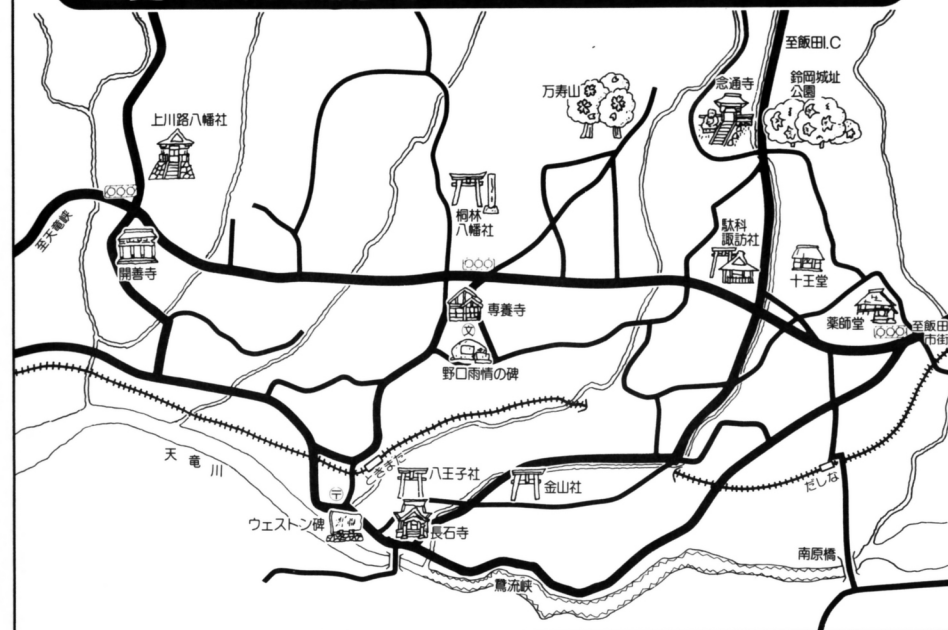
これまでに紹介した以外の自然散策の推薦ルートは、①ホッキから南原橋方面の雑木林。②鈴岡公園から毛賀沢を経て松尾城址公園へ続く遊歩道。③新川添いに上流へ向う溪流歩き、等。



西の空を向いて、竜丘の自然を見守っている念通寺の石仏

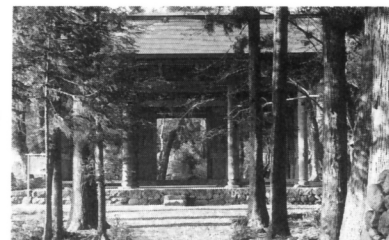
## 歴史がみえる散歩みち

名所・旧跡コース



### 豊秀山 開善寺

臨済宗妙心寺派。本尊は聖観世音菩薩。一般に建武2年(1335)小笠原貞宗が中国の僧清拙正澄を招いて創めたときとされていたが、文書資料により、それより古く鎌倉時代末期の創建であることが明らかとなった。伊那谷屈指の古刹、朱印他35石拝領。度重なる火災により堂塔伽藍は焼失し、現在の建物は江戸時代の再建である。



開善寺の山門(国重要文化財)

### 火災を免れた山門

は元禄8年老松が倒れて二階部分を破壊、今は階下の部分のみであるが、室町初期の遺構。昭和27年3月国の重要文化財の指定を受け、36年大規模な解体修理を行った。鐘楼「吼雲楼」は昭和23年に国の重要美術品に認定された。

寺内に保管の四仏四獣鏡は付近の御猿堂古墳からの出土とされ、昭和28年3月に国の重要文化財に指定された。

### 万寿山公園

バラやつつじと四季それぞれに美しい万寿山公園であるが、何といても「桜の万寿山」の名の通り二百本からなる桜の開花は見事という他はない。また、その眺望は桐林、長野原から竜東を望み、更に伊那山系からのぞく南アルプスの眺めは素晴らしい。昭和初期に地元の有志が植えた桜をその後桐林共和会の人々が手入れし続けて今日に至っている。共和会発足以来百年の歴史を持つ。

### 時又 八王子社

祭神は建速須佐之男命。相殿は八柱皇子神・伊雑皇大神・稲荷大明神。昭和5年11月村社に列す。昭和21年宗教法人八王子社と称するようになった。昭和22年12月12日、十社(伊那那岐命他九神)と白山神社を合祀。



## ウェストン碑

新川が天竜川に合流する所、左岸に建てられている。明治42年英国人のウェストン牧師は時又から舟下りして景勝地を世界に紹介した。碑にはその紀行文の一節が英文と日本語訳で書かれている。碑は昭和39年天竜橋の上流岩盤上に建てられたが、護岸工事のため昭和43年に100m下流の現在地に移された。



通船から観光へと移りゆく港の姿と、天竜の流れを黙々とみつめながらたたずんでいる。

## 長野原 金山神社

祭神は金山彦神。金物を扱う人達の祀る神様であり、創建は建治元年(約700年前)との説がある。社殿の再建は元和元年(約350年前)と嘉永元年(約130年前)とされている。御神木の檜の大樹は樹齢約800年余。社宝は飯田藩の幌(インド更紗のとばり)で、式典の際に掲げている。奉額は関流門人の大野保造算額と、土俵上向き合った力士の額(明治初期に長野原出身で十両になった長野野という関取)。御神楽太鼓は天保飢饉の頃に村の13戸が連署して寄贈したもの。

## 松尾山 長石寺

真言宗智山派。本尊は聖観世音菩薩。縁起によれば、「養老元年(717)行基が仏像を彫刻してこの地に安置し建久2年(1192)小笠原長清が十二坊を建立。京都から僧石海を招じ再興した」とあるが、古くは駄科にあったと言われる。類火のため今の堂は明治3年の建築、諏訪郡立川和四郎の作である。



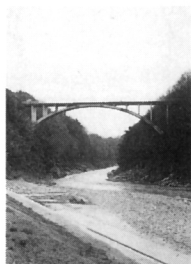
初午まつり

昔から初午まつりが有名で、蚕や馬等の産業振興に力を注いだ寺であるが、近年は初午に併せて行われる「裸まつり」や灯ろう流しで広く知られている。

## 鷲流峡

南原橋から時又までの約1kmの深い峡谷一帯を鷲流峡と

いう。長野原から西岸に伝い掘切(ほっき)を経て天竜橋までの眺めは素晴らしく、特に南原橋が美しく映える。一方、天竜橋を渡りイタケ沢を経て南原橋までを東岸伝いに歩くと途中に名刹文永寺(下久堅)があり、ハイキングコースには最適である。天竜下りの舟から望む南原橋は中天にかかった虹のようにも見え、舟をこぐ櫂のきしむ音が峡谷にこだまして風情を一層盛り上げている。



## 南原橋

駄科駅から徒歩5分。天竜川にかけ下久堅南原に渡る橋が南原橋である。明治2年に黒瀬ヶ淵に架設されたのが初代の橋で、その後場所を移し、形式も変わり、10代目から現在の位置にかけられ、その当初は吊橋であった。現在の橋は12代目で昭和51年3月に竣工し、高さは約50mである。その優美な姿は鷲流峡の景観を一層引き立てている。

## 竜丘小学校 自由画教育と雨情碑

大正時代の竜丘小学校は自由教育で全国的にもその名の知れた学校であった。それまでの手本を見て模写する絵画から、自然や動物を写生する自由画を山本鼎の指導のもとで、木下紫水は取り入れ、第2回全国自由画展を開くまでになった。現在も当時の絵画が大切に保管されており、教育史に輝きを与えている。また、同じ頃、野口雨情を招いて童謡を音楽教育に取り入れてもいる。校庭の一角には雨情の遺稿「伊那の竜丘」の碑がある。



当時の生徒の絵画



雨情の碑

## 鈴岡公園

駄科の西北部に位置し標高450m、高さ30m、北方は急峻な毛賀沢の谷(深さ60m)を隔てて

同標高の台地上の松尾城址と相対し、鈴岡城址公園として、5月のつつじ祭りのほか、一年を通じて、市民の憩いの場として賑わっている。

## 十王堂

古くは駄科村の十王信仰の建物であったが場所が移転され現在の塚越1号墳の隣りにある。

天保2年(1831)法華宗(日蓮宗)箕瀬町長源寺の末寺となり妙光山長蓮寺となった。

上郷町別府にあった長蓮寺の御曼陀羅が本尊とされていた。

建物内の十王像は駄科薬師堂に移されて現在に至っているとされている。

## 駄科 諏訪社

竜丘の地区内唯一の諏訪社である。

全国に千余とも数千とも言われる諏訪社が地区内に1社ということは、その成立も含め意味深いものがある。祭神は建御名方命。



駄科諏訪社

諏訪社が全国に拡散した時期の中心は中世のある段階といわれており、そこで浮かんで来るのが、北西に位置する鈴岡城との関連である。甲州武田氏の一族とされる小笠原氏が伊那谷への進出にあたり、築城とともに諏訪社の建立を成したとすれば、駄科のお宮が諏訪社であることが当然のことといえる。

## 薬師堂

駄科の薬師堂は村持で、文政年間の建立である。薬師堂は「阿羅多薬師堂」「阿羅多堂」ともいわれ、天文11年(1542)小笠原貞基が領内に十二薬師を祀った中の4番札所になっている。毎年4月8日には、お釈迦様を祭り甘茶がふるまわれている。また12年に1回御開帳の儀が営まれている。飯田地域の薬師堂が



駄科薬師堂

「目」の字の位置にあるため眼病に効あるとされている。

## 高林山 念通寺

念通寺は寛永10年(1663)の創立であると言われ、前には字母夕井にあり禅宗の寺であったといわれる。寛文10年(1670)に現在のところに移り、以後浄土宗智恩院末寺となった。現在の所在地は、伊那を代表する段丘地形念通寺面の最東端にあり、駄科はもちろん竜丘のほぼ全域を見渡せる景勝の地にある。



念通寺石段と石仏

## 専養寺

桐林区民センターの前に専養寺がある。戦前には花祭りに甘茶や花草団子がふるまわれ子供達の楽しみの一つであった。現在は4月に大般若が行われている。昔は庵寺であったので、近くに庵の塚という塚がある。

## 桐林 八幡宮

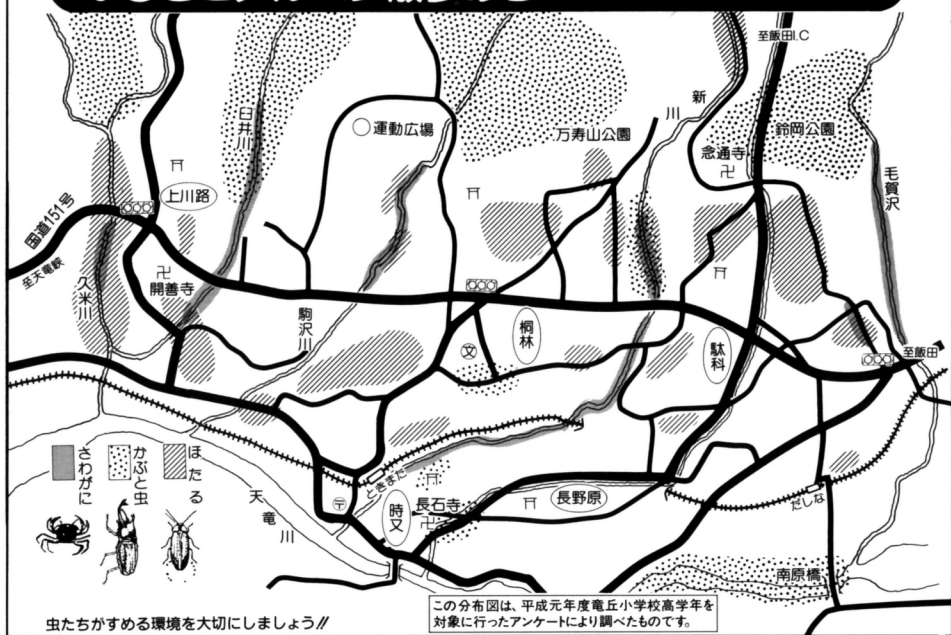
杉や松におおわれて鳩ヶ峰八幡宮がある。

誉田別尊(応神天皇)が祀られている。木彫の座像は1尺3寸余で丸顔で優美な姿である。本殿は本格的な流れ造りで、松と鳩のかえる股、象頭形の木鼻、蘭花、牡丹の彫りものがあり、桃山式建築で当地方には例の少ない貴重な文化財である。

## 上川路 八幡神社

祭神は誉田別尊、相殿は建御名方命。勧請の時期不詳。古記録では八幡大神と諏訪大明神の合祀は文禄5年(1596)という。現在の社殿は昭和11年竣工。明治6年頃は八幡宮。大正6年9月14日村社八幡社の指定を受ける。昭和21年から宗教法人八幡神社と称す。

ふるさとメルヘン散歩みち — みちくさコース —



ふな、こい、どじょうは川の中、もろこやめだかは沼の中、しじみはきれいな川の中、みんなでさがそう今もいるはず。

ざりがに、さわがに石の下、おかに上ってあわをふく。あめんぼうにみずすまし、げんごろうも水のうえ。あおだいしょうにやまかがし、とかげやむかでも草むらに。いもりは山の水たまり。



くわがたむしやかぶとむし、取りに行こうよ朝はやく。どちらが強いかもうとれ。

ににいせみにあぶらせみ暑い盛りはうるさいが、つくつくぼうしやひぐらしがなければ暑さを忘れさず。

はたるは夜空のお姫さま天の川からとんできた。

**秋** いととんぼ、はぐるとんぼは川のふち。しおからとんぼは池がすき、赤とんぼは空高く、おにやんまは大きいな。

こがねむしは金持ちだ、たまむし、かなぶんきれいだな。てんとうむしもきれいだな。

いなごにばったは高とび名人、しょうりょうばったは天神さまだ。きりぎりすは楽器の名手、こおろぎ、うまおいまげずになけよ。おけらはどこにいるかいな。こわいぞかまきり、じょうろうぐも。

山にはきのこがたくさんあるよ、いくち、はつたけ、おしょうにん、くりたげどはんにしようかな。どんぐりころころくりひろい。

あけび、ようぞめ、ばらいちご。薬草せんぶり、われもっこう。

**冬** むしや草花冬ごもり雪の下でねむってる。むくどり、ほほじろえささがし。

**知っているかな！ 見つけよう！**

一春の七草一	一秋の七草一
せり、なずな	すすき、はぎ
ごぎょう、はこべ	おみなえし
ほとけのぎ	ききょう
すずな	なでしこ、くず
すずしろ	ふじばかま

竜丘にはまだ、たぬき、きつね、はくびしん、りすなどがいるよ。

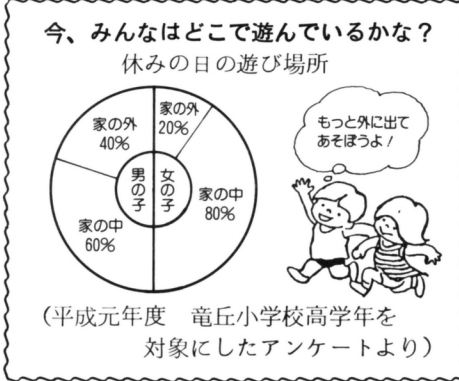
**概要** 竜丘の山や川、土手や林には、まだ豊かな自然がたくさん残っています。竜丘のすべての道ばた、たんぼやはたけの土手、川や林がメルヘン散歩道です。道草コースは、どこにでもあります。自分で見つけていろいろな動物や草花にふれてみよう。

春になったら野山の草花と遊んでみよう  
夏になったらかぶと虫やせみと出あい、川で魚やカニと遊ぼう  
秋になったら木の葉が散り、どんぐりやくりの実が落ちる、拾って遊んでみよう  
冬になったら雪が舞い霜柱がたつ、踏んで遊ぼう

**春** つくし、たんぼぼ、ふきのとう、すみれ、しゅんらんかわいいな。わらび、ぜんまい、ののひるつんで、よもぎのくさもちたべたいな。

つばな、いたどり、すいこんぼ、すい葉もたべておいしいよ。れんげの花で首かざり。

ちょうちょ、ちょうちょの花とまれ。すじぐろしろちょうがひらひら舞うよ。もんしろちょうをさがしてみよう。ちょうのなかまはたくさんいるな、あげはちょうにたてはち



よう、じゃのめちょうにしじみちょう、せせりちょうはいそがしい。

**夏** おたまじゃくしはかえるの子、ひきがえるは大きいよ。とのさまがえる、あまがえるないて降る降る夏の雨。

**草花の遊び方** 花や茎や葉っぱを使っていろいろな遊び方をしよう。

■たんぼぼの茎の風車と水車  
たんぼぼの茎をとって両はじを細くきくと茎がぐるりと曲る。茎の穴に息を吹きかけるとくるくるよく回る。水車にもなる。

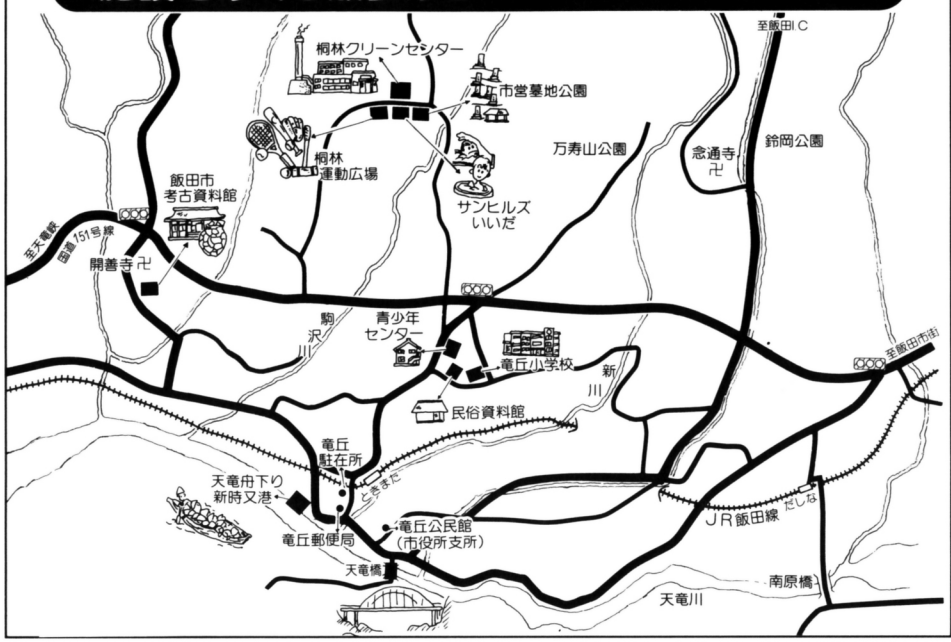
■えのころ草でてんぐの鼻  
えのころ草のほをとって、つめの先で茎を二つにさいて半分ほどひろげ、鼻の下におしつけると「てんぐの鼻」ができる。(えのころ草は、「ねこじゃらし」とも言う。)

■ひがん花の首かざり  
花の咲いた茎を番号のように片方の皮を残して左と右に折りながら花首のところまで二つにさいて両はじをかからませると首かざりができる。(秋の彼岸頃まっかな花を咲かせる「ひがん花」には、きつね花、しびと花、まんじゅしゃげなど、たくさん名がついている)

※そのほか朝顔の花やつつじの花などで、空気であぶりができるし、いろいろな草の茎や葉っぱで笛ができる。工夫してみよう。



施設をめぐる散歩みち — 施設めぐりコース —



今、竜丘地区は目まぐるしく変貌しつつあります。開発が進む桐林上段地域には、クリーンセンター、サンヒルズいいだ、墓地公園、運動広場などの施設が誕生し、新時又港も飯田市のニューフェイスとして完成します。一方で昔からの施設が老朽化し、とり壊され姿を消していくものもあります。保存や改築が望まれるものもあります。そのようなことを心にとめ、この地域のいくつかの建物・施設を訪ねてみましょう。

桐林クリーンセンター

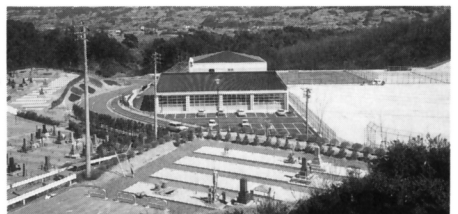
昭和61年着工、3ケ年の歳月を経て平成元年4月に稼働開始。公害防止を重点に配慮されたこの焼却場は最新式焼却炉をとり入れ文字通りクリーンな施設となっている。120t/16hのゴミ処理を可能としており、丘の上にある高さ59mの白い煙突は遠方からもその存在を確認できる。

職業・生活相談や講習会ははじめ、文化教養、研修、グループ活動の場を提供し、労働福祉の充実、文化向上を図る地域のコミュニティの場である。

内部にある25mの温水プールはクリーンセンターの余熱が利用され、また別棟には浴場もあって市民の総合福祉に寄与している。

サンヒルズいいだ

飯田勤労者総合福祉センターの愛称である。平成元年12月オープン。敷地面積5,000㎡、建築面積2,000㎡で静かな環境にあるこの施設は勤労者を中心とする



市営墓地公園

昭和54年に設立、この地域では一番早く造成された。8つの聖域、626区画を持ち、この中には管理棟、駐車場(45台分)、便所、水飲場、あずま屋、シンボル塔が設置されている。また、周囲にはさつき、はぎ、あじさい等25種の

樹木が植栽され、まさに墓地公園にふさわしい環境に施されている。

桐林運動広場

クリーンセンター建設に並行し、平成元年5月にオープン。飯田市総合運動場に次ぐ13,235㎡の広さを持っている。多目的グラウンド、ゲートボール場、テニスコートがあり、巾広く利用されている。運動で一汗かき、サンヒルズいいだでくつろぎ、墓地公園で祖先を偲び、遠望を眺めながら人生を語るのも一興である。

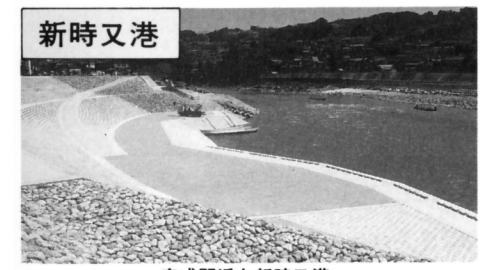
飯田市考古資料館

この建物は、昭和45年より開始された中央自動車道の建設にともなう埋蔵文化財包蔵地発掘調査により出土した、先石器時代から歴史時代にわたる各期各様の遺物を主とし、飯田市が調査発掘した遺物も加えて、収蔵展示されている。



考古資料館内

新時又港



完成間近な新時又港

平成2年4月に開港。天竜川と新川合流点から約100m下流にある。

港の形態はドック式といい、レンガ色を基調にしたカラーで天竜川の観光の拠点として位置づけられようとしている。

高さ9mの堤防から川面までの間は階段状に整備され、夏の灯ろう流しなどの際には観覧席としての役割も果たすようになされている。

竜丘地区 民俗資料館

竜丘小学校の敷地内にある。公民館民俗資料保存委員会の手によって保存管理されており、地区内から集められた多数の農機具、生活用具等は近代の歴史を身近に知ることのできる材料として親しみが持てる。竜丘地区に盛んであった養蚕のいろいろな道具からも往時が懐かしく思い出される。建物が老朽化の一方、収集点数は増加しており、建替も望まれている。



民俗資料館内

飯田市竜丘青少年センター

昭和63年に桐林に開館された地区の児童達の課外活動の場である。1階は柔道場、2階は児童館となっており、青年会の活動の拠点としても利用されている。

竜丘小学校自由画考古室

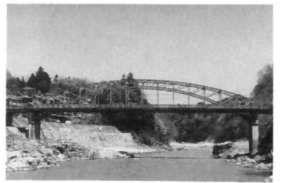
竜丘は、古墳が多数存在する地域でもあり、地区内の遺跡からは多種類、多数の出土品が出ている。これらの石器・土器・鉄器が竜丘小学校に収蔵され、貴重な資料として展示されている。また、ここには自由画教育が推進された当時の生徒の絵画も保管・展示されている。歴史の遺産を大切にしたい地区の気持ちを守っていききたいものである。



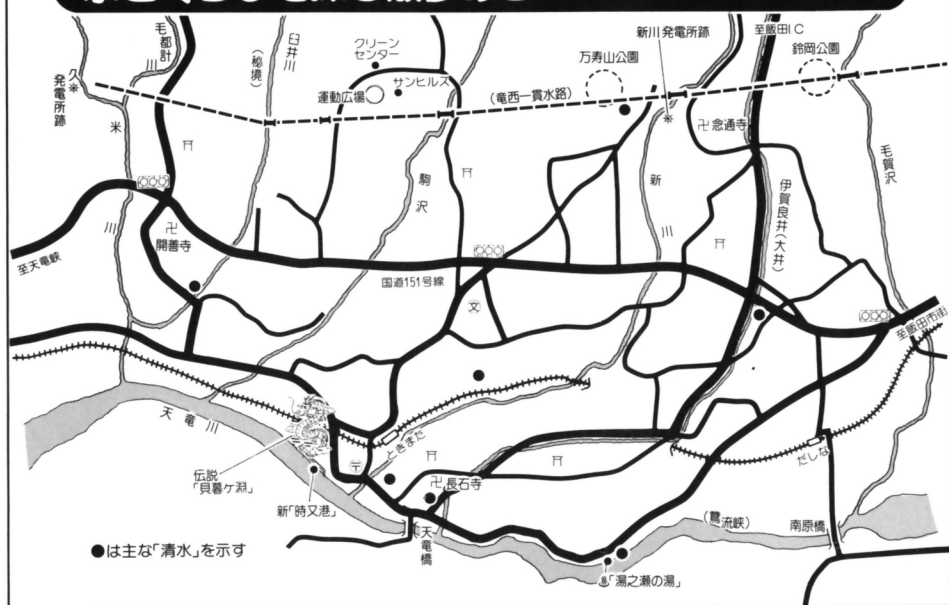
自由画・考古室

天竜橋

昭和10年11月9日の開通。江戸時代まで天竜川には橋がなく、すべて渡船に頼っていた。時又の天竜橋は明治以後、船橋、木橋を経て現在の鉄橋になった。



## 水とくらしを探る散歩みち — 水をめぐるコース —



「水」は、言うまでもなく私達のくらしに無くてはならないものです。30年程前までは、天竜川の水もきれいで、いろいろな魚や虫が棲み大人も子供も「水遊び」に興じたものです。そして、農業を始めとするくらしにも水は大切に使われてきました。しかし、時代は移り、高度経済成長期の頃からは、きれいな水は望めなくなりました。電気や水道の普及によって、自然の川や水に依存してきた人々のくらしも変わり、かつて美しかった川は「汚く」、「危険」なものとなってしまいました。そして、ゴルフ場の水問題や、生活排水による河川の汚れの問題等、**水の危機**は今こそ問われなければなりません。

そんな視点をもって、歴史とくらしにまつわる「水」をめぐってみましょう。

## 天竜川をめぐりコース

**湯の瀬の湯** 鷲流峡(名所・旧跡コース参照) 右岸中程の崖下に約270年前に発見された「湯之瀬の湯」と呼ばれる鉱泉があり、泉質の良さで広く近在の人々に親しまれた。



湯の瀬「駒つなぎの桜」

今は、残念ながら、「36災」以来県道沿いに上がり、湯場は無い。又、わずかに上流に茶屋の跡があり樹齢400~500年位の「駒つなぎの桜」といわれる枝垂れ桜が当時の面影をわずかに今に伝えている。

**時又港の歴史とまつり** 時又の歴史は、交通史そのものである。江戸時代、天竜川に一本の橋も無かった頃からの「渡し船」や、「いかだ」を使った舟運は、明治・大正と続き飯田盆地の通運の中心地として栄えた。

一方、「初午まつり」や「灯ろう流し」に代表される「まつり」とか、魚釣りや水浴び等の「人々の暮らし」と川が、昔から、これ程密着して盛んに行われてきた所は、全国広しといえどもそうは見当らない。しかし、昭和10年、下流ダムの完成により通船は全く不可能となってしまった。又、戦後になると鉄道から自動車へと交通機関も移り変わり、更に桐林にバイパス道路が通り開発が進むと時又

の過疎化は日増しに顕著となってきた。

そんな危機感が叫ばれる中、平成2年4月新川下流に新しいドック式の「時又港」が、地元の期待を受けて完成する。今、更に地元を中心に、新しい港に続く上流部を**階段護岸**や桜並木の「親水公園」にと、大きな「夢」が描かれつつある。こうして、又、新しい歴史が始まろうとしている。

「親水公園化」が待たれる護岸  
時又灯ろう流しの花火

## 水害の記憶と復興 日本三大急流の一つ

## 天竜川支流と用水井をめぐりコース

**毛質沢** 河川延長5.1 km。松尾地区との境界をなし鈴岡城址と松尾城址に吊橋が架けられている。「城陸井」の取水源である。

**新川** 河川延長6.6 km。JR飯田線の車窓から見えるが、「太郎井・飛岩井・中溝井・新井原井」など多くの用水井の取水源となっている。又、**新川発電所**があったことを知る人は少ない。(別項参照)

**駒沢** 河川延長1.6 km。桐林と上川路の間を流れ、唯一、竜丘地区内を水源とする小河川。

**白井川** 河川延長3.8 km。侵食により奇岩怪石の通称「白井川秘境」(別コースを参照)をなす。「向井・前田井」の取水源。

**茂都計川** 河川延長7.8 km。久米川に合流して天竜川へ。一部「源氏ヶ滝」等、渓谷美を残す。「樋ヶ入井・下井」の取水源。

**久米川** 河川延長9.7 km。川路地区との境界を流れ、茂都計川に続き白井川を合流して天竜川に注ぐ。新川の次に**発電所**ができた。「びしゃでん井・大下井」の取水源。

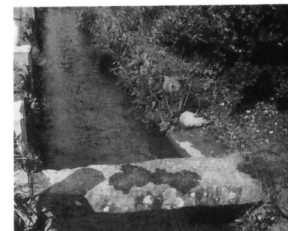
天竜川は「**暴れ天竜**」の名の通り、350年の間に75回も記録に残る大災害を起こした。昭和36年6月のいわゆる「36災」から早くも30年の歳月が流れようとしている。

当時の記録によれば飯田市内(当時の竜江村を含む)だけでも、死者17名、全壊家屋227戸、半壊家屋258戸、流失家屋62戸、床上浸水497戸、床下浸水5,382戸、流失及び埋没農地651ha、という膨大な被害であった。山林、道路や橋等の公共土木施設等の被害を考え合わせると気の遠くなるような損害であった。そして、この内の竜丘の被害は、時又や上川路を中心に市内でも有数であった。

その後、復旧も大々的に行われ何も無かったかのように天竜の水は流れ、人々の記憶も風化しつつあるが、「**災害は忘れた頃に...**」の諺を生かし治水対策事業の完成が待たれる。

## 伊賀良井(大井)

竜丘の丘陵地に遠く松川から取水し、多大な恩恵をもたらしたのが「伊賀良井」である。特に駄科や長野原にとっては計り知れないものがある。下伊那地方で最大規模と言われ、歴史も700年以上と言う。別名、**大井**と呼ばれるにふさわしい。灌漑用水ばかりでなく生活用水としても使われている。先人が、ほとんど人力だけの技術で完成させた苦労は想像を絶し、一方、沿線の水利権調整などの論争は筆舌を超えるものがあつたに違いない。その後の、竜西一貫水路の開通に加え、米の減反政策や上水の普及もあって今、水不足は死語化の感があるが、先人の知恵と汗や血を忘れてはならない。



今も立派な「大井川」

## 竜西一貫水路

松川町から天竜峡までの延長24kmの沿線住民の悲願のもと長い年月と巨費を投じてつくられた。



所々、地上に顔を出す一貫水路



水の利用をめぐるコース

**発電所** 竜丘に初めて電灯がともったのは大正4年(1915)であった。幾多の困難を克服し、新川中流に発電所を設け出力35KWの供給を開始した。これは、産業組合としての発電事業では日本で最初のことであった。続いて、大正11年(1922)には、久米川に出力35KWの第二発電所を開設した。しかし、戦後、組合も解散されその輝かしい過去を知る人も少なく、面影はわずかに残された残骸とそれをするす看板のみである。



万寿山中腹に立つ「水神様」に欠かせないもので、今でも使われている。

**清水や井戸や池**

竜丘は傾斜地が多く所々にきれいな清水が湧き、吊井戸も見られた。学校下の清水坂や天竜橋上の「港の湯」入口の清水、安城垣外の清水、上川路の清水坂等にあったが今は枯れたものや、飲み水に適さなくなった。

池は、主に農家で農具を洗ったり、暮らしに欠かせないもので、今でも使われている。

**水車** 水の力をたくみに利用した水車は昔から天竜川の支流と用水井に沢山見かけられたというが、その姿は消えて久しい。

伝説めぐりのコース

**貝暮ヶ淵のはなし** 『昔々(今から350年程前)飯田の殿様は、天竜川をせきとめ時又から上川路にかけての広い田んぼを作りました。しかし、どうしたわけかヶ所だけ水がひけず、それはそれは大きな池ができました。この池は「貝暮ヶ淵(かむろがふみ)」と名付けられ、やがて、岸には草木がうっそうと茂り、水は黒ずんで青く、なんとも神秘的なものすごさをたたえるようになりました。誰言うともなく、淵には「大蛇」が住んでいると言うようになり、大変恐れられました。その後、この淵を埋め立てる話が持上がり、これを聞いた村人達は「あたり」が起ると反対しました。そこで、開善寺の和尚様の提案で、「人柱」を埋めてあたりを鎮めようということになり

ました。ただし、その人柱は生きた人間ではなく、墓石を代わりにということでした。ある日、和尚様のお経の中、一つ一つ墓石を沈めて淵は無事埋め立てられました。その後、淵を追われた「ぬし」は大下条の「深見の池」へ移り住むようになりました。……とさ！  
この淵があったのは、今の「帝通」崖下の「旭プレコン」の東側あたりだそうです。



**天竜川のかわらんべ**

「かわらんべ」は全国にある「かっぱ伝説」と似ています。おそくまで川遊びをしている子供達は、『早く帰らんと、「かわらんべ」にさらわれるぞ！』と叱られました。

川の「生物」に教えられる身近な環境

竜丘婦人会で「大井川の水と生物」の調査をしたところ、「汚れたところに住む」と分類されている虫などが身近なところに多い、ということが分かり「ショック」だったそうです。昔から、小川に群れていたメダカや、夏の風物誌のホタル、天竜カジカやカワトンボ等の、ありふれた生きものが少なくなったり姿が見られなくなったりするのは、子供達の遊び場でもあった水辺や雑木林などの貴重な自然が失われてしまったことを示しています。

こうした自然が破壊されたり汚染されたりするのは、ゴルフ場等の開発や工場廃水によるばかりではありません。私達の台所やお風呂の、ゴミや生活排水に原因するものが少なくありません。竜丘の「ギフチョウ」同様、美しい信州の自然を保全することは私達の身の廻りの生活環境を守ることにあります。

都会では得られない「本物の自然」が私達の財産です。これからは、この自然や景観を最上位にすえて、みんなで学習しながら「住みよいまち」をめざし、21世紀に伝えましょう。

ふるさとめぐり ア・ラ・カルト

地区別コース

**上川路めぐり** 上川路公民館→開善寺→考古資料館→上ノ坊2号古墳→馬背塚で石室2つを見学(懐中電灯持参)→宮ノ脇2号古墳→上川路八幡社→浅間塚→大畑(ギフチョウ公園)→権現塚→御猿堂古墳で石室に入る→上川路公民館へ戻る。

**時又めぐり** 時又公民館→八王子神社→石段を下って右折、新川、踏切を渡ったら左折、再度踏切を渡って→時又駅→駐在所前左折、小径を下って→豊川稲荷→県道を右折→時又港→堤防を上流へ→ウェストン碑→更に上流へ、橋の下を通って→青麻神社→県道→長石寺。

**長野原めぐり** 長野原区民センター→長野原二ツ塚→中井田1号・中井田2号古墳→ゲンチヨナギ古墳→変電所→市農協→掘起(ほりあがり) (緑と天竜の流れを楽しむ)→湯の瀬の湯→市営団地→長野原金山社→大井川(沖の原と呼ばれた往時を偲んでみる)→区民センター。

**桐林めぐり** 桐林区民センター(専養寺)→庵の塚第2号古墳→民俗資料館→野口雨情碑→前の原古墳→青少年センター→丸山古墳・梶垣外古墳→R151号→大塚→兼清塚→塚原古墳群(内山塚→二子塚→鎧塚→鏡塚→塚原3号塚→蒜田)→クリーンセンター→運動広場→サンヒルズいいだ→墓地公園→サンヒルズいいだ→ギフチョウ公園→臼井川秘境。

**駄科めぐり** 駄科公民館(駄科諏訪社)→駄科発電所跡→念通寺→駄科共同墓地→鈴

岡公園展望台で駄科の全域を眺める。旧道→平塚→塚越1号古墳(十王堂)→旭街道を下って下平へ入る→薬師堂→番匠塚→J.R踏切→南原橋で天竜の上流・下流を見る→宇賀神社→旭松食品→駄科駅→大井川端→権現堂1号古墳→公民館。



南原橋下流の天竜川

旧道コース

**遠州街道** 毛賀沢橋を渡って駄科へ入ってすぐに右折をすると急な坂になる。そこを起点にして小学校の前を経由して川路の島へ通じる竜丘の中央線。それが「市道1号線」で、昔の遠州街道はほぼその道なりにあった。道沿に残る古い石造文化財が昔の物語を伝えてくれる。

**南山街道** 遠州街道を駄科石橋屋さん前で左折して時又方面へ向う道が南山街道(かんの道とも言う)で、竜東へつながる主要街道であり、飯田城→松尾城→時又港→竜東→秋葉様と重要な街道であったが往時を偲ぶものは道標だけになって来た。



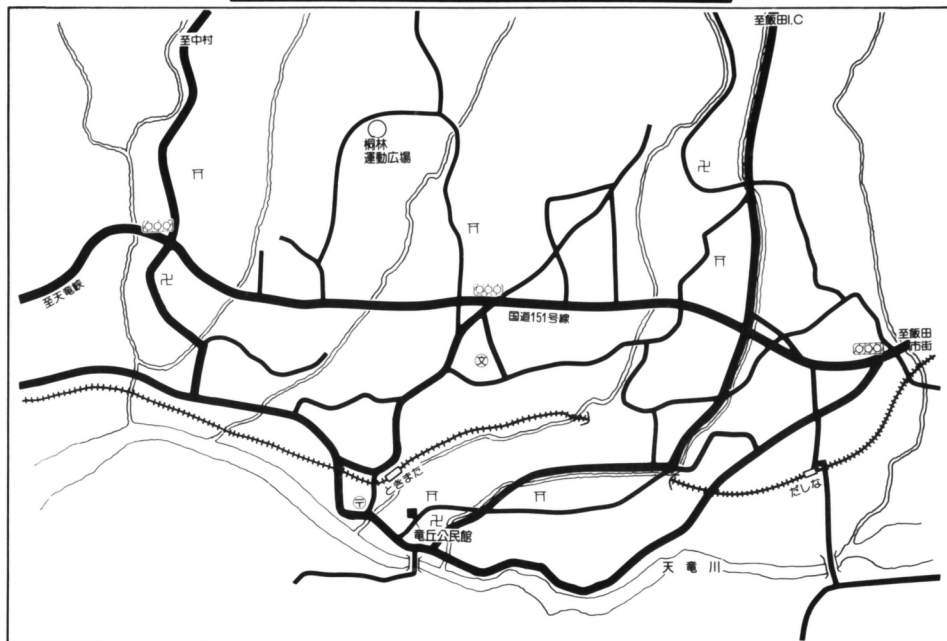
駄科の道標

気分は殿様コース

**保寿寺の殿様** 龍江保寿寺の山門の石段で竜丘方面を見る。開発中の竜丘が一目でわかり、築城中の殿様気分が味わえる。

**南原の殿様** 下久堅南原の最上段で竜丘方面を遠望する。竜丘の全部が眺められて、どうしてこんな古墳に触れる(塚越古墳・平成元年4月)な平坦で肥沃な土地をふるさとにしたかとホレ直し、殿様気分。





※ 思い思いの散歩みちをつくって、竜丘を歩いてみましょう!!

## 竜丘の年中行事

- 1月** おん火  
子供たちが中心となって正月の飾り物を集めてもやし、その火で焼いた餅を食べると病気にかからないと言われる。7日の未明に地区内10ヶ所以上でいっせにおん火が燃え上がり、竹のはぜる音が響くと厳しい寒さも忘れてしまうほどである。
- お日待ちまつり**  
長野原に古くから伝わる祭りで、昔は1月31日の夜から始めて、2月1日の日の出を迎えた。今は、おむすびを皆で食べ、大人たちは夜がふけるまで四方山話に花を咲かせ宴会を行っている。
- 3月** 初午はだか祭り  
旧暦2月初めの午の日、最近はその日に近い日曜日に行っている。長石寺の観音菩薩に養蚕の安泰を祈り、祭神である白馬のみこしを厄年の男性が裸でかつぎ、天竜川の水に身を清める。この祭りがすむと伊那谷も春の訪れとなる。
- 4月** 甘酒まつり  
駄科諏訪社の春祭り、4月13日であったが現在は4月の第2日曜日に行う。伊賀良井の完成の時に甘酒を奉じて祝ったところから始まったと言われている。北平の屋台はやし、南平の青獅子、下平の白獅子が出て舞が奉納される。
- 8月** 灯ろう流し  
8月17日に行われる。天竜川のほとりに祭壇を設け、長石寺へ集めた盆灯ろうなどを天竜川へ流す。僧の読経とともに川面に映える火と、夜空に打ち上げられる花火によって飯田三大祭りの一つとして年々盛大になっている。



R151桐林沿道を望む

### 村のみちしるべ — 竜丘ふるさと教材 — (平成2年3月発刊)

■問い合わせ 飯田市竜丘公民館(長野県飯田市時又503番地の1)  
☎ 0265 (26) 9303



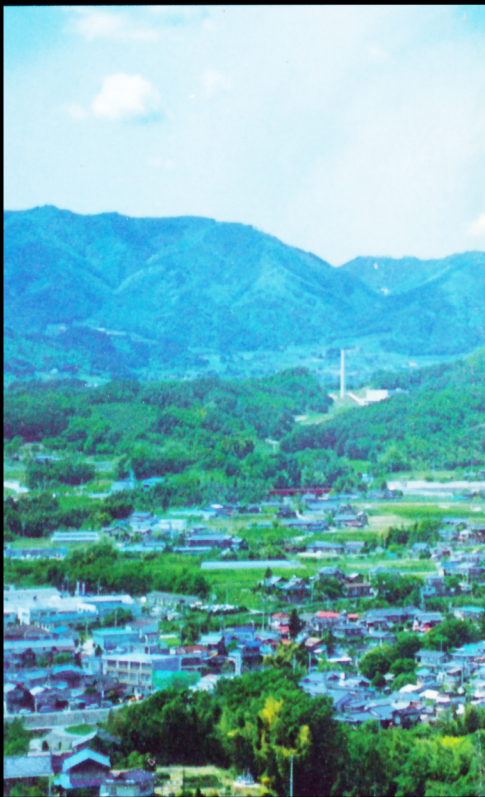
私たちの竜丘は、  
歴史と文化と自然の宝庫です。  
歩いてみると、  
知らないでいたことや  
忘れかけていたことが  
たくさんあります。  
かけがえのない宝物を  
失わないためにも、  
今、『足』で確かめてみて下さい。



開善寺山門



桐林の地藏様



住所 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_



天竜橋と舟下り